

台桜の魅力を徹底解剖

①子どもたち一人ひとりに目が行き届く

多くの人が台桜幼稚園に抱く印象の一つに「人数が少ない」が挙げられます。入園を決める上での懸念点だという方もいるのではないのでしょうか。けれど、実際の園生活を送る中ではかえってそのことがよい面を発揮しているように感じられる場面が多々あります。今号では、誰一人として埋もれずにすむこの環境においてどのような保育を受けているか、をお伝えします。



担当：かんの



①一人ひとりに目が行き届く

2021年8月時点の園児数は23人、教諭、特別支援教育支援員、用務・事務の職員を合わせると9人。園内全体に大人の目が行き渡るので、どこで遊んでいても見守られているという安心感があります

教職員は子どもたち全員とかかわり

普段幼稚園にいる教職員は全園児を把握。担任かどうかにかかわらず、日頃から声をかけ成長の様子を見守ってくれています。そのため、学年が上がり担任が変わっても、子どもも保護者も不安になることはありません。

「できた」が増えるよう根気強くサポート

「生活面での自立がすべての土台」という考えのもと、発達度合に応じた指導が行われます。例えば年少児の場合、ボタンの留め外しやスプーンの持ち方など。無理やりさせるのではなく、様子を見ながら声がけしたり、助け船を出してくれたりするので、子どもたちは自分のペースで課題に取り組めます。



(上) さっそく双眼鏡を作って新たな冒険に出発。
(左) 工作材料や道具のワゴン。「次はこれに興味を持つかも」と思い浮かんだ材料を目立つ位置に置いておくこともあるそう

けんかを学びに変え、成長へと導く

友だちともめたと聞くと、親は多少心配になりますが、先生方は「けんかは自己主張できている証。発達過程で必要なこと」とどっしり受け止め、一人ひとりの気持ちに向き合ってくれます。友だちの気持ちを推し量ったり、自分の気持ちを相手に言葉で伝えたりできるよう励まし、支援してくれるのです。

子どもたちの興味を察知し、さりげなく提案

担任の先生は子どもたちと遊ぶ中で、それぞれの成長や興味・関心の移り変わりを感じ取ります。上の写真は年少組が園庭で冒険ごっこを楽しむ様子を見て「双眼鏡、作ってみる？」と先生が提案した時のもの。遊びをさらに発展させるだけでなく、セロハンテープを切って貼る練習も兼ねているそうです。

「台桜の魅力徹底解剖」は今年度中に

②異年齢・小学校・地域とつながれる

③季節の植物や生きものに触れられる

④毎日の送り迎えで子どもの様子がよく分かる

⑤防災、防犯、コロナ予防……子どもの安全対策もしっかりを順次掲載する予定です。あわせてご参考に!!